

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
Tel 0463-59-4111 (内線 2200)

大学における研修に対する教員の期待

鈴木そよ子

教員免許状更新講習の実施によって、多くの大学が小・中・高等学校の教員の研修に関わるようになった。この教員免許状更新講習は、2006年7月の中央教育審議会答申を受けたもので、教員免許状の有効期間が10年間に区切られ、免許状を更新するために講習に合格することが義務付けられた。本学では2008年度の試行と2009年度の第一回講習を実施した。

これまで大学が組織として関わってきたのは教員養成であったから、現職教育に当たるこの講習は、大学にとっても受講する教員にとっても、新たな取り組みとなった。実施要項については繰り返し文部科学省から説明を受けたが、受講者である小・中・高等学校教員が、どのような内容・方法の研修を望んでいるかという調査やデータについての情報は乏しかった。

本学の教職課程では、せっかく新たな取り組みをするならば、講習実施前に教員の要望を把握したうえで企画したいと考え、卒業生の現職教員に質問紙調査を行った。共同研究「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」の調査の一部にあたる。

20歳代から50歳代の185名が自由記述で回答してくれた内容を分析した結果、大学での研修として期待されているのは、大学ならではの知見や設備を生かしながらも、学校での教育実践に寄り添うような内容で、参加型の研修であった。意見交換のできる環境が求められていた。この結果を生かして、講習の運営にあたり、受講者から好評を得た。

本稿では、質問紙調査の結果を簡略に紹介したい。

全記述回答の約75%が「内容」に関するものであり、約25%が「方法」に関するものだった。「内容」の中でも1番多いのが、「教科・道徳・総合的な学習の時間」に関するもので、「内容」全体の約40%を占める。2番目が「生徒指導・子ども理解・進路指導」に関する

もので、約30%を占める。3番目が「大学の教育・研究」であり、約9%になる。

「方法」では、「事例研究」が約50%、「参加型」が約32%、「相談・交流会」が約18%となっている。

それぞれの項目を具体的にみると、内容として最も期待されている「教科・道徳・総合的な学習の時間」としては、専門知識、教材研究、授業方法、「達人の授業」の指導方法、退職者による実践的ですぐ使える内容の研修、教科教育法の新しい流れ、指導法の過去と現在のメリット・デメリット等、教科を巡る多様な側面からの要望がある。

2番目の「生徒指導・子ども理解・進路指導」では、カウンセリングの研修、児童理解に関する研修、LD、ADHDの子ども理解とその対応、軽度発達障害に対する実践的指導など、切実な必要性が窺える。

3番目の「大学の教育・研究」では、二つの方向があり、一つは専門教科との関係で最新の研究を体験的に大学で学びたいという方向であり、もう一つは、教育実践との関係で教育についての考え方を学びたいという方向である。

次に研修方法として、回答者の50%があげている「事例研究」は、講師があるまとまった事例を用意して、それをたどりながら参加者と共に考えていく形の講習が一般的だ。

2番目の「参加型」は、「事例研究」よりさらに参加度が高い。集団討論、ワークショップ、分科会形式で参加者が討論、ロールプレイング、カウンセリング体験、エンカウンターグループの実践、模擬授業の生徒役など、実践的な取り組みへの提案が示されている。その研修での講師は、ファシリテーターか、スーパーバイザーのような存在であろうか。

他県、他校種、大学生との交流も回答者の希望に含まれており、交流の場としての期待も大きい。

(所員/すずき・そよ子)

国経研特別事業進捗状況

ジュニア・ボード構想—わたしたちの提案

前号のNo. 27でご案内したように、小中高から、合わせて172件の提案作文の応募がありました。1作文につき2名の所員が審査にあたり、以下のような結果になりました。

小学生の部：最優秀賞1、優秀賞2、奨励賞7件
 中学生の部：最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2件
 高校生の部：最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞4件

この結果を踏まえて、入賞者には提案内容の発表およびその講評と表彰式を11月20日(土)午後、平塚商工会議所3階大ホールで行いました。入賞テーマの分野は、おおきなくくりでは以下のようになっています。

- ・ “街の経営”にかんするテーマ：9件
- ・ 道路や交通機関など移動の安全にかんするテーマ：6
- ・ 家庭、生活にかんするテーマ：3
- ・ 学校運営にかんするテーマ：2

テーマの分布をみていて、1つ傾向があることに気づきました。それは小より中、中より高というように上位学校に進むにつれて、テーマに社会性が現われているということです。来年度以降も注視していきたいと思えます。

応募者を含む入賞者には、記念品、図書カードがそれぞれ配られました。支援は大学、社会人、企業人、ゼミOB会などからいただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

今年初めての企画だったので、広報活動にも力を入れました。事前のアナウンスは、研究所のホームページに掲載し、また「朝日新聞」(2010年10月3日)、「湘南ジャーナル」(2010年11月19日)でも紹介されました。

当日の様子は、「朝日新聞」(11月23日)、「神奈川新聞」(11月23日)に採りあげられました。その後、商工会議所の「商工だより」にも掲載予定

されています。

ジュニア・ボード構想のその後

反省点

- ・ 受賞者には担当の教員やご父母の付き添いがありました。応募動機、テーマ設定の過程、作成段階でのアドバイスの程度など、お聞きする機会を作れなかったこと、
- ・ 当日開催したもう1つの社会人向けシンポジウムとの連動性がそれほど密ではなかったこと、
- ・ 当日100名程度の参加者を得たにもかかわらず、市民一般、商店街の経営者の方々の参加率がきわめて低かったこと、などがあげられます。

現在進行中の作業

1. ジュニア・ボード構想から得られた情報をもとに、市民一般、企業人に対しアンケートを実施し、そのデータをもとにコンシェルジュ構想、さらには“シャッター商店街”の夜明け構想との連動を図る。
2. 発表会に参加した社会人から“当日の気づき”についてのメモを収集、整理し、共有することにより、社会経営や地域経営のヒントを得、高水準の地域組織学習機会を作る。また発表者への情報フィードバックも視野に入れている。
3. 市役所、商工会議所、県の諸機関との連動を図りながら、地域経営にとって何が可能かを模索する。

いずれも、未経験の事業であり、試行錯誤を覚悟しなければなりません。現実を把握しながら理論武装の展開を同時進行的に進める必要があります。“社会に開かれた”国経研をスローガンに、研究を着実にあげていくことが期待されます。幸い、経営学部では来年度秋季に「地域学」が開講される予定です。その講座との連動性も力強い支援となります。引き続きご支援のほどをお願いします。

「養生法」を担当して

関口博正

養生法(ようせいほう)は、大学設置基準の大綱化を受け、気功をはじめとする養生に関する知見を保健体育に取り込むことを意図して平成15年に設けられた科目で、筆者は平成19年から担当している。

孫立先生から意念養生健身術(站椿功(たんとうこう)を中核とする意拳養生法)を十年間学び、また、平成19年から各種気功を岩田定先生からも学ぶうちに、全体を観ること(全機性)を教える東洋の哲学が、分析的な手法を主に採用する西洋型の研究教育の体系のなかでどのようにして生かされるのかに興味を涌いた。このことが授業を担当することになった動機である。ここに全機性とは、例えば心臓は全身にあるという捉え方をいう。心臓は物理的には一つだが、全身の毛細血管の全てがポンプの役割を果たしているからである。指が何故五本あるのかについても、五本の指は五臓に対応するからだと教える。東洋医学で各患者のカラダの状態を診て証を立て、同じ症状でも異なる処方を行うのも、全機性の考え方に支えられている。

「生きている人間のからだは、皮膚という生きた袋の中に、液体的なものがいっぱい入っていて、その中に骨も内臓も浮かんでいるのだ」(野口三千三『野口体操・からだに貞く』伯樹社, 1977, 11頁)と説明される水の概念も東洋独特のものだといわれている。本来の柔らかなカラダを直視せずに、コチコチになって液体の消失してしまった死体を解剖したことで、人間は硬くて動かない骨に神経や肉・皮膚がへばり付いているのだと誤解してしまったのだろうと野口は説明する。

皮袋に水分が詰まっていると理解するのであれば、そこにプカプカ浮いている骨や内臓は袋を揺らすことで自在に動き得るものとなり、椎間板ヘルニアの痛みすら揺らすだけで緩和する(自分のカラダが水で充満していて、骨は水中に浮いていると感じられた瞬間、不思議なことに痛みと共存出来ることになる。筆者の場合は頸椎症に悩ま

されていたが、自らの身体を皮袋に水分が詰まったものだと観念できたとき、痛みは劇的に軽減した)。

講義では内気功、すなわち站椿功などを中心とする静功とスワイショウ・試力などの動功によって気を練ることを指導している。静功及び動功の基本姿勢と意念の用い方の基本を伝えることの他、呼吸と動作を合わせること、カラダの内側に感ぜられる内軸と外軸(地軸)のベクトルを合わせることなどが指導の中心である。

コマの軸がぶれるとうまく回らないように、ヒトも立ち居振る舞いで軸がぶれないことが大切で、外軸と内軸とを合わせることで、その人の思考方法や主義主張において“ぶれない”ことに繋がる。

この他にも、内的な力を蓄えて瞬間的な爆発力を養成すること、内臓を柔らかくして自動作用を促すことなど、站椿功には様々な意味付けが可能だと思う。

また、站椿功には脳神経細胞を開発する効果もそなわっている。通信の世界に例えるならば、メタル回線を光ファイバーケーブルに張り替えるようなもので、脳神経細胞を活性化することで肉体を動かす意思もしくは意念(ココロ)の伝達速度を驚異的に高めることが出来る。ただ、そのような効能を並べると自体にはあまり意味がなく、只管打座に倣い、ただひたすら立つことに徹するという無心の境地を目指せば良いのだと思っている。また、立つ状態と同様の功力が得られる座(座る)・臥(寝る)のメニューも確立されていることから、ある段階以降は特定の形を守って「立つ」ことにさほどこだわることも必要なくなると考える。

一定の段階に達した後にはあらゆる形式から開放され、行住坐臥の教えの通り、日々の生活における意識のあり方によって全ての行いが気功(站椿功)になることが伝わるように心掛けて指導している。東洋哲学に基礎を置く養生の思想は、学ぶほど、教えるほどに深遠である。

(所員/せきぐち・ひろまさ)

研究余滴

■ シンポジウムのご案内

下記の日程でシンポジウムを開催します。なお事例報告者は、仮を含みます。

- ・ 日 時：3月26日(土) 13:00 ~ 17:00
- ・ 場 所：平塚商工会議所3階大ホール
- ・ テーマ：モノづくり、コトづくり、そして智慧
おこしーグローバルな視点からの提言ー
- ・ 講演者：清水敏允(神奈川大学名誉教授)
須田孝徳(北海道大学)
湘南地区、経営者複数名交渉中
- ・ 事例報告者：小川敦(株)山川機械製作所、代表取締役社長)
田城裕司(株)タシロ、代表取締役社長)
山下 祐(株)シンクフォー、代表取締役社長)

■ 研究サロンのご案内

下記日程で研究サロンを開催します。

- ・ 日 時：3月3日(木) 教授会終了後
- ・ 場 所：11号館第1会議室
- ・ 講 師：坂井原良夫(元神奈川大学経営学部教授)
- ・ テーマ：私とドラッカーとのかかわり

■ 経営学部国際経営学会主催・懸賞論文入賞者

学内他機関と連携をとりながら情報共有を進めている弊研究所では、折をみて他機関の成果紹介もしております。今回は国際経営学会主催の懸賞論文入賞者の紹介です。

研究論文部門

優秀賞 (二篇)

- 地域医療の連携で切り開く病院経営の未来 小山浩明
- 女子サッカーにおける日米比較 高橋美香
-日本女子サッカーの今後の展開-

奨励賞 (四篇)

- なぜハイブリッドカーは売れるのか 伊藤 新
-消費者意識に焦点をあてて-
- ソニーとパナソニックのCSR活動に関する研究 菊池 瞳
-環境への配慮と雇用形態の比較に焦点をあてて-
- コンビニエンスストアの経営戦略 小林大祐

職と宗教

- 日本人キリスト教徒の職業選択- 山口竜太
- 努力賞 (三十一篇) 参加賞 (七十五篇)

研究レポート部門

優秀賞 (三篇)

- 神奈川大学湘南ひらつかキャンパスにおける学生生活改善に向けて 浅松謙一・小野田紗弓
- 斎藤佑樹・松尾菜津美・三浦武士
- アイドルファンとコミュニケーション 杉田絵理
- ITを活用した企業PRについて -コミュニティマーケティングを利用した新しい企業PRとは- 汐海 守

奨励賞 (十一篇)

- ファストファッションに見る経営理念
- Forever21の経営システム- 栗山美由紀
- 企業不祥事と誠実な経営 -三菱自動車、西武鉄道、カネボウの不祥事の分析を通じて- 齋藤宏典
- 製菓産業におけるコーポレート・ガバナンスと比較研究 佐藤藍子

IT業界における比較研究

- グーグルとヤフーと楽天- 島影浩貴
- 神奈川大学の学生に向けた野菜摂取の促進 鈴木理恵子・小林未季・佐藤健
- 望月健太・梅谷崇宏

不況下において業績を上げている企業

- ヤマト宅急便とユニクロを中心に- 張 克
- 活字のデジタル化時代をめぐる一考察 津久井蘭太
- 家電量販店のコーポレート・ガバナンス

- 大手三社の企業経営機構を中心とした比較- 豊川裕子
- コンビニのコーポレート・ガバナンスの比較

- セゾングループ・ローソン・ファミリーマートに焦点をあてて- 西川陽介
- 保険会社におけるコーポレート・ガバナンスの比較研究

- 日本生命・損害保険ジャパン・かんぽ生命に焦点をあてて- 藤岡みなみ

神奈川大学生の飲酒運転に対する意識改革

- 4人に1人が飲酒運転経験者という実態から- 湯浅宏太・足立祐太・石川光・菅原早紀

- 努力賞 (四十一篇) 参加賞 (五十篇)

文学や思想あるいは社会現象の世界では、根拠や論理性のないことでも、十分に話題になる。最近、tipping point なる言葉を複数の書籍で目にした。5パーセントの現象が残りの95パーセントに影響を与え、ときに既存の現象を塗り替えることがある、というような意味である。少子にも希望がわいてきた。質の内容はさておき、目立たない隅の5パーセントを目指そう。でも寂しいかもしれないなあ。やっぱり95のほうが楽そうではないかな？ウーン、どうしよう。(E)